

一〇 湖南地方ニ於ケル南北兩軍間抗戦ノ際ノ日本側被害一件 四六六

在長沙

領事 池永 林一(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

大津弔慰金送金方ノ件

本件ニ関シテハ往電第七六号ヲ以テ伺ヒ置ノ処今般貴電第三七号ヲ以テ本省宛送金スル様御回電ニ接シ敬承、別紙中日銀行手形ノ通り換算貴地台湾銀行經由會計課長宛及御送金候間御査取相成度ク猶次回右ニ関スル送金モ同様取扱可致候条右様御了承相成度ク此段申進候 敬具
追テ貴電第三七号末段現金受領ノ事ハ其当時北京、漢口へ転電済ニ有之候間此段申添候

添付書類

一、第三〇号一金七千八百拾貳円五拾錢也

中日銀行手形 會計課長宛ノモノ 屯通

一、中日銀行換算証相場九拾六弗換屯通

但シ大正十一年十二月二十三日換

(附記)

大正十二年二月七日附竹内日清汽船社長ヨリ内田外務大臣宛書

翰

大津氏実父ニ弔慰金送付ノ件

事項一一 北満守備隊撤退ニ関スル件

四六七 六月二十八日

在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛

日本軍ノシベリア及北満地方ヨリノ撤兵ニ関

シ中国陸軍首班会議開催ノ件

機密第一一〇号

(七月四日接受)

大正十一年六月二十八日

在哈爾濱

総領事 山内 四郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

支那陸軍首班会議開催ノ件

我帝國政府ノ西伯利亞及北満地方ニ於ケル駐屯軍撤兵声明ニ関シ支那陸軍首班等ハ五月二十七日護路軍總司令部ニ於テ予備會議ヲ開キ左記ノ事項ヲ協議シタリト云フ

記

一、西伯利亞及北満地方ニ駐屯スル日本軍撤兵スル時ハ赤軍及馬賊団ノ横暴ヲ免レザルノミナラズ奉直戦争後民心安定セザル今日支那トシテ最モ注意ヲ要スル時期ナリ

一一 北満守備隊撤退ニ関スル件 四六七

大正十二年二月七日

日清汽船株式会社

社長 竹内 直哉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

大津来徳弔慰金ノ件

過般支那湖南政庁ヨリ御受領被下候故大津来徳弔慰金壹万五千五百四拾円八拾五錢ノ義ハ去ル一月十一日貴省ヨリ受領後直ニ熊本県山鹿町大津遺族へ送金方法ニ付照会致シタルニ同十八日肥後銀行山鹿支店宛送金方申越シタルニヨリ同日直ニ送金ヲ了シ候処同二十五日正ニ右金員ヲ受領セル由ニテ本日実父大津民作ヨリ懇篤ナル謝状ニ接シ候間為念此段御届申上候 敬具

二、東支鉄道ハ世界強國ヨリ國際管理ヲ主張スル矢先日本軍撤兵後赤軍馬賊等横暴ヲナシ外國人ノ生命財産ニ危害ヲ加フルコトアラシカ忽チ東支鉄道ハ國際管理ト為スニ相違ナシ然ル時ハ中華民國トシテ重大問題ナリ

三、奉直戦争以前ナレハ日本軍撤兵スルモ何等慮カル事ナク中国軍隊ニテ充分ナル警備ヲ為シ得ルモ目下兵器及兵力ノ不足勝ナル上ニ財政ハ困難状態ナルヲ以テ完全ナル警備ハ覚束ナシ

四、日本軍撤兵迄ニハ約五千ノ國境警備兵募集ノ必要アリ張作霖ニ申請シ日本軍撤兵事実ナルヤ否ヲ確メ更ニ會議ヲ開キ善後策ヲ講ズル事

五、東支沿線ノ中国軍隊ハ其責任ヲ重ンジ外國人及外國軍隊ト衝突セシメザル様各營長ニ訓令スル事

六、以上予備協議ヲ為シ最近ニ正式會議ヲ開催スル事ニ決シ閉会セリ

参考 駐屯軍撤兵声明ニ対シ市民ハ一般ニ好感ヲ抱キ満足セル傾向在リ

四六五

右御参考迄及報告候 敬具

写送付先 北京公使、奉天、長春

四六八 七月十三日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

東支鐵道沿線ノ日本軍隊撤退時期ニ付中国側

ヨリ問合越ノ件

附屬書一 六月二十七日附在中国小幡公使ヨリ額外交総

長宛公文第九九号

シベリア撤兵ニ関シ通告ノ件

二 七月十二日附額外交総長ヨリ小幡公使宛公文

中字第一六一号

東支鐵道沿線日本軍隊ノ撤兵時期ニ関シ照会
ノ件

機密第三〇九号

(七月二十日接受)

大正十一年七月十三日

在支那

特命全權公使 小幡 酉吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

西比利亞沿海州日本軍隊撤退方ニ関スル件

本件ニ関シテハ貴電合第二四六号御訓令ニ基キ當時六月二十七日附公文ヲ以テ別紙甲号写ノ通額外交総長ニ及照会置

候処今般同総長ヨリ別紙乙号写ノ通西比利亞沿海州ニ於ケル日本軍隊ハ本年十月末以前ニ撤退スルコトニ決定相成尙同地日本臣民保護ノ為適當ナル措置ヲ講セラルル趣御来照相成閱悉セリ尙東支鐵道沿線軍隊モ本年十月末以前ニ同様撤退セラルヘキ旨外務省ヨリ声明アリタル趣駐日廖代理公使ヨリモ報告ニ接シ居レル処前記各処ノ軍隊ハ夫々異レル時期ニ於テ各別ニ撤退実行セラルヘキ儀ト察セラルルニ付テハ東支鐵道沿線ニ於ケル軍隊ノ撤退ハ果シテ何日ニ於テ行ハルルヤ予メ承知致度趣問合越有之候就テハ委曲別紙ニテ御査閱ノ上何分ノ儀御回示相成度此段申進候也

(附屬書一)

(別紙甲号写)

六月二十七日附在中国小幡公使ヨリ額外交総長宛公文第九九号
シベリア撤兵ニ関シ通告ノ件

第九九号

以書翰致啓上候陳者今般帝國政府ハ本年十月末日迄ニ日本軍隊全部ヲ亞比利亞沿海州ヨリ撤退スルコトニ決定シ同地方居住日本臣民保護ノ為適當ナル措置ヲ講スルコト相成候

此段帝國政府ノ訓令ニ依リ貴國政府ニ及御通報候 敬具

大正十一年六月二十七日

日本帝國特命全權公使 小幡 酉吉

支那共和国外交総長 顏惠慶殿

(附屬書二)

(別紙乙号写)

七月十二日額外交総長ヨリ在中国小幡公使宛公文中字第一六一号

一 号

東支鐵道沿線日本軍隊ノ撤兵時期ニ関シ照会ノ件

照会中字第一六一号

外交総長顏

照会事准

照開奉本國政府訓令称帝國政府現已決定至本年十月底止將西伯利亞沿海州之日本軍隊撤退為保護居住該処日本臣民計當另籌適當之措置等因業已備悉並准本國駐日本廖代辦電称貴国外部声明西伯利亞及中東路沿綫軍隊定於本年十月底以前撤退等語查各処日軍既在本年十月底以前撤退諒係分期分段実行所有現在駐中東路之日軍訂於何時撤退希先期詳示至綏睦誼相照會
貴公使查照即希轉達

貴國政府並盼

見覆為荷須至照会者

右 照 会

大日本欽命駐華全權公使小幡

中華民國十一年七月十二日

四六九 七月二十日

岸本関東庁警務局長ヨリ
埴原外務次官
赤池拓殖長官 各宛
土岐在京事務総長

日本ノシベリア撤兵ニ対スル奉天文治派ノ觀

察報告ノ件

関機高収第九七八一号

(七月二十五日接受)

大正十一年七月二十日

岸本関東庁警務局長(印)

埴原外務次官殿

日本ノ西比利撤兵ニ対スル奉天文治派ノ觀察

(関東軍參謀部報)

奉天文治派ノ日本西比利撤兵ニ対スル觀察ノ概要左ノ如シ現ニ支那ハ紊亂ノ際ニシテ自ラ願ルノ遑ナキ時ニ於テ若シ日本ニシテ撤兵セハ西比利ノ過激派及匪賊ハ必ラス支那ノ

土匪ト連絡シ地方ヲ騷擾シ東支鐵道被害事件ハ屢々起リ支那側ニ於テハ愈々処置ニ苦シムニ至ルヘシ故ニ日本ノ撤兵ハ尚早ニシテ暫ク支那大局ノ略定スルヲ俟テ撤兵スルヲ良策トナス

然ラスンハ欧米人ハ東支鐵道ノ共管ヲ主唱シ其警備ニ特種ノ警察制度乃至ハ更ニ共同出兵ヲ云々スルニ至ルヤモ計リ難シ然リト雖日本ニシテ其声明ヲ敢行スルニ於テハ支那側ハ已ムナク東支沿線ハ勿論吉黑兩省就中辺境ニ於テ防備ヲ嚴ニシ外人ノ保護ヲ初メトシ自国民ノ保護ニ任セサルヘカラス由來北滿ノ地ハ馬賊横行甚タシキ地ナリ然ルニ現下時局ハ安定セス加フルニ高粱繁茂ノ時期ニ際会ス此時ニ當リテ日本カ撤兵ヲ断行スルハ恰モ一家ノ墻壁ヲ除クニ等シカルヘシ斯クシテ匪賊ハ益々増長シ平和ノ保持困難トナリ人民ハ愈々不安ニ襲ハルルニ至ルヘシ故ニ東三省ハ特ニ如上ノ対内対外ノ關係ヲ留意シ極力兵備ヲ嚴ニシ警察隊ヲ督勵シ以テ東支鐵道ノ共管問題ヲ惹起セシメズ又外國ノ再共同出兵無カラシムル様努力スルヲ緊要ト信ズ云々

四七〇 七月二十七日 内田外務大臣ヨリ 在中国小幡公使宛

東支鐵道沿線撤兵時期ニ関シ芳沢局長ヨリ廖

臨時代理公使ニ回答ノ件

亜一機密第一四八号

北滿撤兵実行期ニ関スル件

東支鐵道沿線軍隊撤退ニ関シ七月十三日附機密第三〇九号貴信ヲ以テ御申越ノ趣聞悉本件ニ付テハ曩ニ在本邦廖代理公使別用ヲ以テ芳沢亞細亞局長來訪ノ際同代理公使ヨリ本件ニ関スル質問アリタルヲ以テ芳沢局長ハ北滿撤兵ハ西比利亞撤兵ト關聯シ本年十月末迄ニ完了シ從テ in due courseニ開始セラルベキモ其ノ時期ハ未定ナル旨答ヘ置キタルコト有之候ニ付右御含ミノ上外交部照会ニ對シ可然御回答相成度此段申進候

四七一 七月二十七日 内田外務大臣ヨリ 山梨陸軍大臣宛

東支鐵道沿線撤兵時期ニ関スル件

亜一機密第一一五号

北滿撤兵実行期ニ関スル件

東支鐵道沿線軍隊撤兵ノ時期ニ関シ在支小幡公使ヨリ別紙^(註1)甲号ヲノ通り申越アリタルニ付之ニ對シ不取敢別紙乙号ヲ^(註2)ノ通回答致置候間右御含置相成度此段申進候也

註1 別紙甲号ヲ前掲ノ七月十三日附小幡公使宛内田外務大臣宛機密第三〇九号及同附屬書ノ全文ト同文ナルニ付省略ス
2 別紙乙号ヲ前掲ノ七月二十七日附小幡公使宛亞一機密第一四八号信ト同文ナルニ付省略ス

四七二 八月三日 在中国小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛

シベリア沿海州及北滿ヨリ日本軍撤退後ノ治

安維持ニ関シ中国政府回答ノ件

機密第三五三三号 (八月九日接受)

大正十一年八月三日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

西比利亞沿海州及北滿日軍撤退後ノ治安維持ニ関スル件

本件ニ関シ外交部ニ對シ注意喚起ノ次第ハ七月十三日附機

一一 北滿守備隊撤退ニ関スル件 四七二

密第三〇九号ヲ以テ不取敢及報告置候処今般外交部ヨリ本件日本軍隊撤退後ニ於ケル支那軍隊ノ増派有効ナル籌備並治安維持ニ関シテハ外交部ヨリ關係各機關ニ轉知シタル外、參陸弁公処ヨリモ吉黑兩督軍ニ電命シ置タルヲ以テ夫々回答ヲ俟テ當方ニ通報スヘキ旨別紙來文ヲ如ク回答致越候ニ付委曲右ニテ御承知ノ上可然御取計相成様致度此段報告申進候也

(別紙)

八月二日附沈外交次長ヨリ小幡公使宛公文中字第一八一号

照会中字第一八一号

代理部務外交次長沈

照会事准第一二〇号

為

照開請於西比利亞沿海州及北滿地方日軍撤退後在延辺及國境一帶地方増派軍隊妥籌有効之措置以保治安並將弁理情形迅速見復等因當經轉行關係各機關並由參陸弁公処加電吉黑兩督軍妥速籌弁除俟得復再達外相應先行照復
貴公使查照可也須至照会者
右 照 会

大日本國欽命駐華全權公使小幡

中華民國十一年八月二日

(右和訳文)

八月二日附沈外交次長ヨリ小幡公使宛公文中字第一八一号

沿海州及北滿駐屯軍撤退ニ関スル件

中字第一八一号

書翰ヲ以テ啓上致候陳者第二二〇号御照会ニ接スルニ西比利亞沿海州及北滿地方日本軍撤退後ニ於テ延吉辺地及国境一帯ノ地方ニ軍隊ヲ増派シ適宜有効ナル措置ヲ計リ以テ治安ヲ保チ並ニ其処理情況ヲ速ニ回答センコトヲ請フ等ノ趣、依テ直チニ関係アル各機関ニ転達シ並ニ参陸升公処ヨリ吉林黒龍江兩督軍ニ打電シテ速ニ取計ハシメタレバ其回答ニ接スルヲ俟テ尚ホ御通牒致スヘキ筈ナルガ不取敢此段御回答申進置候 敬具

中華民國十一年八月二日

四七三

八月四日

福原関東軍参謀長ヨリ
菊池参謀次長宛(電報)

北支駐屯英米兩國軍ノ撤退ニ付張作霖談話ノ件

関電第一八〇号

外壬字第五七号

以書翰致啓上候陳者今般本国外交部ヨリ東支鐵道撤兵ノ件ハ正式ノ照会ヲ以テ確實ナル撤退期日ヲ問合セ並ニ日本政府ノ当時聲明セル原文ヲ写取り送附スヘキ旨訓令ニ接シ候処実ハ先般本代理公使芳沢局長ニ面晤ノ際同局長ニ於テ右駐兵ハ十月末ヲ以テ一律ニ撤退完了スヘシ但シ撤退開始ノ期日ハ尚ホ未タ決定セス云々ト述ヘラレタルカ今般前記ノ通り訓令ヲ受ケタルニ就テハ確實ナル撤退期日ニ付速ニ御回答相煩度又本国外交部ニ送附ノ為貴国政府力前回聲明セラレタル原文一通ヲ写取り御送附ヲ得度此段照会申進候

敬具

四七五

八月十二日

在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本軍ト共ニ引揚希望ノ邦人ニ対スル措置ニ付請訓ノ件

第二三四号

(八月十二日接受)

閣下発在浦潮総領事宛第一四七号ニ関シ当管内東支東部沿線地方在留民中ニモ我守備隊撤退ノ為不安ヲ感シ此際引揚ケ希望者アル見込ノ処此等ノ者ニ対シテハ如何取計可然ヤ

一一 北滿守備隊撤退ニ関スル件 四七五 四七六 四七七

張作霖ノ言、在奉天某英國人ハ張ニ対シ米國ハ近ク北支那駐屯軍ノ全部ヲ、英國モ亦唐山ニ一部ヲ残シ大部ヲ撤退スベク決セル旨語レリ

四七四 八月八日

在本邦中国臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

東支鐵道沿線ヨリ撤兵期日ニ付照会ノ件

外壬字第五七号

(八月九日接受)

敬啓者奉本国外交部函開中東路撤兵事希以正式照会詢問撤退確期並將日政府当日聲明原文抄寄等因查該案前經本代使晤芳沢局長據稱限於十月底一律撤完惟開始撤退日期尚未予定等語茲奉前因相応函請查照將撤退確期速賜見復並將貴政府前次聲明原文抄錄一份送来以便転寄本国外交部為荷茲本代使対於

貴大臣特表敬意謹具

中華民國十一年八月八日

中華民國代理公使 廖恩燾(印)

日本外務大臣伯爵 内田康哉閣下

(右和訳文)

至急何分ノ御回訓ヲ請フ

四七六 八月十四日

増原外務次官ヨリ
児島陸軍次官宛

中国側ヨリノ撤兵期日問合ニ対スル回答振ニ付陸軍省ノ意向回示方依頼ノ件

亜一機密第一二五号

北滿撤兵ノ期日ニ関スル件

本件ニ関シ今般在本邦支那代理公使ヨリ別紙訳文ノ通申越ノ次第有之候ニ付右ニ対スル回答振ニ関シ貴省御意向何分ノ儀御回示相成度此段及照会候也

註 別紙訳文ハ前掲ノ八月八日附廖中国臨時代理公使ヨリ内田外務大臣宛公文外壬字第五七号ノ和訳文ト同文ナルニ付省略ス

四七七

八月十四日

内田外務大臣ヨリ
在ハルビン山内総領事宛(電報)

日本軍撤退後ノ治安ニ付中国当局ニ交渉方並邦人引揚ニ対シ政府ハ何等関与セザル旨回訓ノ件

第一二七号

貴電第二三四号ニ関シ

東支沿線撤兵ノ前後ヲ問ハス在留民ノ保護ハ支那政府ノ責任ナルニ願ミ其ノ安全ニ対シ何等危険ヲ感セラルルニ於テハ支那地方官憲ニ嚴重交渉アリ度シ

尚在留民中支那官憲ノ保護ニ不安ヲ感シ強テ引揚ヲ希望スルモノアラハ勿論之ヲ阻止スルノ必要ナキコト支那ノ他ノ地方ニ於ケルト異ナル所ナキモ帝國政府トシテ此ノ際右引揚ヲ從憑シ若ハ引揚ニ対シ何等物質的補助ヲ与フル筋ニアラサルヲ以テ右御含ヲ以テ可然御措置アリ度シ

四七八 八月十八日 南滿洲瓦房店居留民一同ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本人居留民ノ為日本軍撤退セザル様請願ノ件

同文電報三 (八月十九日接受)

独立守備隊撤退セバ我が居留民ノ安全保証ヲ撤去スルモノナリト思考、極力是ニ反對ス何分ノ御考量ヲ願フ

四七九 八月二十日 在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本軍撤退後ノ情況視察ノ為警察官出張許可

必要差迫リ此際増派警官ノ来着スル迄一時関東庁所属ノ警察官御派遣相成様特ニ御詮議ノ上至急何分ノ御回電ヲ請フ

四八一 八月二十三日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

シベリアヨリノ避難邦人ノ通関ニ関シ中国側ノ便宜供与方ニ付具申ノ件

第五九五号

本使發哈爾濱宛電報第三二二号

貴電第八六号ニ関シ

二十三日日本使外交総長ニ対シ本件ハ直接稅務所ニ対シ書面ヲ以テ照会シ置キタルガ同所ヨリ更ニ外交部ニモ申出デラレタシトノコトナル処彼等ニ対シ簡易通関方尽力アリタキ旨申入レタルニ総長ハ本件約八百名一度ニ通過スヘキ儀ナルヤト問ヒタルニ付本使ヨリ詳細ハ承知セサルモ彼等ノ居住セシ地域広大ナル關係上陸統通過スヘキモノナルベシト答ヘタルニ総長ハ兎ニ角國境稅關規定ノ範圍内ニ於テ特ニ便宜ヲ与フル様速ニ稅務所ニ移牒スベシト答ヘタリ然ルニ本件本邦人ハ一般旅行者ト區別スル為杉野領事ヨリ何等証明書等ヲ与フル手続ヲ執ルニ於テハ通関ニ便利ナルヘク或

方稟請ノ件

第二四八号 (八月二十日接受)

駐屯軍撤退ニ関シ東支鉄道沿線其他ノ情況視察ノ為竝ニ警察官配置方講究ノ為城野巡查部長及大川巡查ノ二名ヲ往復二週間ノ予定ヲ以テ出張セシメ度ニ付電報ニテ御許可相成度シ

四八〇 八月二十日 在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本軍撤退後露領ヨリノ避難民保護取締ノ為警察官派遣詮議方稟請ノ件

第二四九号 (八月二十一日接受)

八月一日附公第三五八号ヲ以テ稟請致置タル当地及東支沿線ニ於ケル在留民保護取締ノ為警察官増員竝派出所設置ニ関シテハ御詮議ノ上実施セラルルコトト存セラルルモ駐屯軍ノ撤退ハ愈期日切迫シ露領方面ノ避難民ハ来ル(脱)月十二、二十二日ヨリ輸送開始セラレ殊ニ多数ノ鮮民ハ東支沿線ニ入込ミ移住スル傾向アルノミナラス彼等ハ何レモ無資力者ナルヲ以テ来着後種々ノ事件ヲ醸スコト多カルヘシト認メラルルニ付是レカ保護取締上至急警察官ヲ派遣スル

ハ先方ヨリ此種手続ヲ要求スルヤモ計リ難キ処何等便法アル次第ナルヤ將又「ボクラニイチナヤ」「ニコリスク」方面ハ阿片ノ栽培盛ナルニ付彼等カ万一簡易通関ノ場合ヲ奇貨トシ此ノ種禁制品ノ密輸ヲ企ツルコトナキヲ保セザルニ付申ス迄モ無キ儀ナカラ此ノ点ニ付テモ十分注意ヲ払ハルル様致シ度シ

杉野領事ニ転電アリタシ、外務大臣ヘ転電セリ

四八二 八月二十三日 児島陸軍次官ヨリ
埴原外務次官宛

北満ノ日本軍ノ撤退時期ニ関シ回答ノ件

陸軍省西密第一四〇号 (八月二十四日接受)

北満撤兵ノ期日ニ関スル件回答

大正十一年八月二十三日

陸軍次官 児島 惣次郎(印)

外務次官 埴原 正直殿

首題ノ件ニ関シ八月十四日附亜一機密第一二五号ヲ以テ照会相成候処北滿洲派遣諸部隊ノ撤去ハ浦潮派遣軍ノ撤去ト密接ナル聯繫ヲ保持スルノ必要有之候為メ其撤去開始ノ時機ハ一ニ浦潮派遣軍ノ情勢ニ順応セシムルコトト致居候条

明確ナル期日ヲ回答致兼ヌル次第ニ候ヘトモ順調ナル場合ニ於テハ九月上旬ノ予定ニ付承知相成度候也

追テ出先軍憲ニ対シテハ支那側地方官憲若ハ軍隊ト撤兵ニ関シ連繫スル様指示相成居リ候条申添候

四八三 八月二十五日 内田外務大臣ヨリ
在本邦中国臨時代理公使宛

シベリア及北満ノ日本軍撤退時期ニ関スル陸

軍省ノ意向通報ノ件

並一普通第二四号

「シベリア」並北満撤兵ノ期日ニ関スル件回答

以書翰致啓上候陳者本件ニ関シ八月八日附外王字第五七号貴翰ヲ以テ御申越ノ趣了承御照会ニ係ル西比利亜撤兵ニ関スル帝國政府宣言書ハ別紙写ノ通ニ有之右茲ニ及御送附候条御查收相成度次ニ北満洲派遣隊撤退ノ期日ニ関シテハ陸軍省ニ照会致置キタル処同省ヨリ該派遣隊ノ撤去ハ浦潮派遣軍ノ撤去ト密接ナル聯繫ヲ保持スルノ必要有リテ其撤去開始ノ時機ハ一ニ浦潮派遣軍ノ情勢ニ順応セシムルコトト致居レル為明確ナル期日ヲ回答シ兼ヌルモ順調ナル場合ニ於テハ九月上旬ノ予定ナル旨回答有之候ニ付右様御承知相

成度此段回答申進旁々本大臣ハ茲ニ重ネテ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

(別紙)

撤兵ニ関スル日本政府ノ宣言

帝國政府ハ本年十月末迄ニ沿海州ヨリ全部撤兵スルコトニ決定セリ居留民ノ保護ニ付テハ機宜ノ措置ヲ講スヘシ

四八四 八月二十八日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

日本軍撤退後ノ治安維持ニ付中国側ニ嚴重申

入方訓令ノ件

第四六四号

北満駐兵モ沿海州撤兵ニ伴ヒ撤退セラルヘキモ兩者ハ互ニ聯繫ヲ保チ実施ノ要アルヲ以テ北満撤兵開始ノ期日ハ確定ニハ至ラサルモ大体九月上旬ノ見込ナル処最近東支沿線地方馬賊ノ跳梁甚シキカ如ク八月十四日「ボグラニチナヤ」附近ニ於ケル列車襲撃、同二十日横道河子附近ニ於ケル列車襲撃ノ如キ其ノ著例ニシテ日本軍隊駐屯ノ今日ニ於テ尚スル状態ナリトセハ撤兵後ノ在留民ノ安全ニ付テハ誠ニ寒心ニ堪ヘサル次第ナルニ付貴官ハ最近ノ機会ニ外交総長ニ

四八六 八月二十九日 児島陸軍次官ヨリ
埴原外務次官宛

日本軍撤退ニ当リ安東税関ノ簡易通関方ニ付

交渉依頼ノ件

陸軍省通達西密第一四三号

北満部隊ノ一部安東通過ニ関スル件照会

大正十一年八月二十九日

陸軍次官 児島 惣次郎(印)

外務次官 埴原 正直殿

北満部隊ノ一部朝鮮經由内地ニ帰還スルコトニ相成候ニ就テハ軍需品ノ在安東支那税関ヲ無税、無検査ニテ通過シ得ル様可然支那政府ニ交渉方相煩度及照会候也

追テ朝鮮經由帰還スルモノハ約三百名及若干ノ軍需品ニシテ其ノ安東通過ハ九月中旬頃ノ予定ニ付申添候

四八七 八月三十一日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本軍撤退後ノ治安ニ付中国政府ニ於テ責任

ヲトル旨外交総長確言ノ件

第六〇八号 (八月三十一日接受)

会见セラレ之等ノ事実ヲ指摘シ治安維持在留民ノ保護方敵

重御申入相成ルト同時ニ撤兵後ハ一層匪賊ノ跳梁ヲ来スコトナキヲ保セサルニ付今ヨリ之ニ対シ充分ノ用意ヲナシ外國人保護方ニ万違算ナキ様措置アリ度旨警告シ置カレ度シ奉天、哈爾濱ニ転電シ奉天ヘハ同様ノ趣旨張作霖ヘ申入方本大臣ノ訓令トシテ申添ヘラレタシ

四八五 八月二十九日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本軍撤退後ノ治安ニ対シ日本人露人ガ懸念

シ居ル旨申報ノ件

第三六六号 (八月二十九日接受)

在満洲里田中ヨリ第三四号

貴大臣宛在奉天總領事宛電報第一四五号ニ関シ本件ハ当地ニ直接關係ナキヲ以テ反対運動ト称スヘキモノナキモ近來東支鉄道沿線ニ於ケル馬賊ノ襲撃支那守備兵ノ頼ムニ足ラザルヲ思合セ在留民及露人ノ多数ハ相当ノ危惧ヲ感シ居レリ然レトモ本件撤兵実施ハ未確定ナリトスルモ右計画ニ付テハ周知ノ事ナルヲ以テ今之ヲ中止若クハ変更セハ齊多側ニ対シ大ナル印象ヲ与フルコトト思考セラル

貴電第四六四号ニ関シ

三十日本使外交総長ニ対シ御訓示ノ趣篇ト申入レタル上内外人ヨリモ撤兵延期ヲ請願シ来レル趣モアリ事態現状ノ如クナルニ於テハ自然帝國政府予定ノ計画ニ支障ヲ来スコトアルヘキヲ恐ルル旨ヲ附言シタル処総長ハ外国人ノ生命財産ノ保護ニ関シテハ支那政府ニ於テモ毎々苦心シ居ル処ニシテ殊ニ本件ニ関シテハ已ニ当該軍憲ヲシテ切実ナル弁法ヲ講ゼシメツツアリト答ヘタルニ付本官ハ然ラハ本件撤兵後ハ貴國政府ニ於テ当該方面ノ治安ヲ維持シ外国人ノ生命財産ヲ充分ニ保護スルノ責任ヲ執ラルル次第ト諒解シ貴総長ノ此声明ヲ帝國政府ニ公達シ差支ナキヤト念ヲ押シタルニ対シ総長ハ右差支ナシト確答セリ

四八八 九月一日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

治安維持ニ関スル本使申入ニ対シ願総長ガ苦
惱シ居ル旨仏國公使吉田ニ内話ノ件

第六一五号 (九月一日接受)

往電第六〇八号ニ関シ

恰モ本使外交総長ニ面会ノ直ク後ニ会见セシ仏國公使モ東

第三七〇号 (九月四日接受)

閣下発在支公使宛電報第四六四号ニ関シ

御訓令ノ趣旨張作霖ニ申入レタル処張曰ク

自分ハ日本兵ノ撤退ニハ不賛成ナレ共日本政府ノ方針トシテ已ニ決定セル以上致方ナカルヘキヲ以テ今後ノ治安維持、在留民ノ保護方ニ関シテハ極力万全ノ方法ヲ講スヘキコト勿論ナルガ憂フル所ハ露國側ノ新旧兩党派ノ軋轢ノ結果ハ必ス其ノ余波北満地方ニ及ヒ馬賊及不逞鮮人等ヲシテ跳梁セシムルノ勢ヲ馴致シ延テ南満地方ニ及ボス影響重大ナルモノアリト信ス就テハ日本政府ニ於テハ共同ノ利害關係ニ鑑ミ自分(張)ヲ使テ先頭ニ立タシメ背後ヨリ援助セラレンコトヲ希望スル次第ナリト語レリ
在支公使ヘ電報セリ

四九一 九月五日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛

撤退部隊ノ安東無税通過ニ付中国当局ノ了解
ヲ取付方訓令ノ件

亜一機密第一七八号

北満部隊ノ一部安東無税通過ニ関スル件

一一 北満守備隊撤退ニ関スル件 四九一 四九二 四九三

支鉄道沿線ノ治安ニ関シ質問スル所アリタリト見エ其後同公使ガ吉田ニ内話スル処ニ依レバ同日顧ハ本使ノ本件申入ニ対シ頗ル worried シ居レリトノ事ナリ御参考迄

四八九 九月二日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

シベリアヨリ引揚本邦人ノ簡易通関方要請ニ
対スル中国側回答ニ関スル件

第六二七号 (九月二日接受)

本使発在哈爾濱總領事宛電報第三五号

往電第三二二号ニ関シ手廻行李及零細ノ物件ニ対シテハ特ニ簡易通関セシムヘキモ多量ノ貨物ハ税関規則ニ拠リ徵税スヘシ右ハ既ニ当該税関ニ命令済ナル趣稅務處長ヨリ回答アリタリ書面郵送ス

杉野領事ニ転電アリタシ

外務大臣ヘ転電セリ

四九〇 九月四日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本軍撤退後ノ露國側ヨリスル攪乱防止ノ為
日本ノ後援ヲ求ムル張作霖ノ内話報告ノ件

本件ニ関シ今般陸軍省ヨリ別紙写ノ通り照会有之候処右ノ如キハ当然支那側ニ於テ容認スルコトト思料致候ヘ共為念子メ支那政府当局ノ了解ヲ得置度ニ付右可然御取計ノ上結果何分ノ儀御回報相成度此段申進候也

註 別紙写ハ前掲ノ八月二十九日附陸軍省來信西密第一四三号ト同文ナルニ付省略ス

四九二 九月七日 在ニコリスク居留民会ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本軍撤退開始及邦人引揚ニ付報告ノ件

当市ヨリ軍ノ撤退ヲ開始サレタルモ保護ニ関スル適當ノ措置ナシ残留居留人等危険ヲ慮リ引揚ゲヲ敢行ス

四九三 九月九日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

撤兵ハ九月上旬開始中旬終了ノ予定並稅関ノ
無税通過方ニ付中国政府ニ申入方訓令ノ件

第四七四号

往電第四六四号ニ関シ

北満撤兵ハ九月十日頃開始九月中旬(長春迄引揚ノ期日)ヲ以テ全部終了ノ予定ニ付前電ノ申入ニ関聯シ右支那政府

四七七

ヘ通告アリタシ

尚撤退部隊ノ一部約三百名朝鮮經由内地ニ帰還スルコトトナレル趣ニテ携帶軍需品ヲ安東税関ニテ無税無検査ニテ通過セシムル様支那政府ヘ交渉方陸軍省ヨリ依頼アリタル処右ハ当然支那側ニテ容認スルコトト思料スルモ為念予メ支那政府ノ諒解ヲ求メ置キ度ニ付右至急御取計ノ上結果電報アリタシ

四九四 九月十一日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

撤退部隊ノ一部安東通過ニ付簡易通関取計方
指令ノ件

第四七七号

往電第四七四号ニ関シ

撤退部隊ノ一部安東通過ハ九月十四日及十五日ノ由ニ付支那側ヘノ交渉至急御取計アリ度シ

四九五 九月十一日 在ヘルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本軍撤退後ノ在海林中東海林公司工場保護
ニ関シ採ルベキ措置ニ付請訓ノ件

貴地駐屯軍撤退ノ曉旧兵舎及敷地等ノ国有財産ヲ外務省ニ引継度旨陸軍省ヨリ申出アリタル処之カ利用ノ方法等ニ就テハ別トシ単ニ管理スルニ止ムルトシテ監視人雇人等ヲ要スル維持費年額幾何ヲ要スヘキヤ取調回電アリタシ

四九七 九月十三日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本軍ノ安東通過ニ際シ簡易通関方十三日中
ニ発令ノ件

第六二五号 (九月十三日接受)

貴電第四六四号時日ノ余裕ナク差迫リ接到ノ為十分交渉ノ余地ナカリシモ一再外交部ニ督促ノ結果十三日中ニハ稅務処ヨリ安東海關監督ニ対シ本件無税無検査通関ノ命令ヲ発スル旨ナリ右為念安東領事ヘ電報セリ

四九八 九月十四日 福原関東軍参謀長ヨリ
菊池参謀次長宛(電報)

日本軍ノ安東税関簡易通過ニ付北京ノ總稅務
司ヨリ支障ナキ旨ノ指令発電ニ関スル件

参発第三三六号

北京公使館附武官電ニ依レハ安東税関無税通過ニ関シ十三

第三〇六号 (九月十一日接受)

我軍撤退後ニ於テ建築物其ノ他ノ保護ニ任スル為在海林中東海林公司工場内ニ支那兵約五十名ノ範圍内ニ於テ宿泊依頼ノ件ニ関スル交渉海林出先公司員ト支那軍団長間ニ進ミ居ル趣吉植東拓支店長ヨリ内話アリタル処我方所屬ノ建物内ニ支那兵ヲ入レ保護ニ任ゼシムルコトハ惡先例トモナルヘク又仮令差当リハ先方ニ好意アリトスルモ其ノ將來ニ及ボス影響計リ難キモノアルモ同公司ハ勿論沿線一帶在住民ニ対シ我方ヨリ加ヘ得ル保護ノ程度モ言明シ得サル本官目下ノ立場トシテハ何トモ的確ナル方法ナキニ付差当リ出先公司員ヲシテ支那側トノ交渉ヲ此ノ上進メシメズ又篤ト支那側ノ意向確メノ為中東海林理事者ヲ現地ニ派遣セシメタリ就テハ本件如何取計ヒ然ルヘキヤ至急何分ノ御回訓ヲ請フ

四九六 九月十一日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮及ヘルビン總領事宛(電報)

日本軍撤退後ノ旧兵舎及敷地等管理ノ為要ス
ル維持費年額取調回電方訓令ノ件

合第二九五号

日中ニ北京ノ總稅務署ヨリ其ノ支障ナキ旨指令電ヲ発スルコトトナリ公使モ亦之ニ就キ安東領事ニ陸軍側ト協力ス可キ旨訓電セリト

四九八 九月十五日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

北滿撤兵後ノ治安維持ニ関シ中国側ニ通告並
回答要求ノ件

附屬書一 九月六日附小幡公使ヨリ顧外交總長宛公文第一六六号

北滿撤兵後ノ治安維持ニ関シ書面ニ依リ回示アリ度旨申入ノ件

二 九月十五日附小幡公使ヨリ顧外交總長宛公文第一七三号
右ニ関シ至急照覆アリ度旨督促ノ件

機密第四一六号 (九月二十日接受)

大正十一年九月十五日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

北滿撤兵ニ関シ支那政府ニ通告ニ関スル件

本件ニ関シ貴電第四七四号御来訓ノ趣敬承就テハ別紙ノ通外交総長ニ通告致候尚撤兵後当該地方ノ治安維持並帝國臣民生命財産ノ保護ニ関シ外交総長声明ノ次第ハ當時往電第六〇八号所報ノ処右ニ関シテハ更ニ別紙ノ通同総長ノ回答ヲ要求致置候間委細別紙ニテ御査閲相成様致度此段申進候也

本信写送付先 奉天、吉林、哈爾賓

(附屬書一)

(別紙)

九月六日附小幡公使ヨリ顧外交総長宛公文第一六六号

北滿撤兵後ノ治安維持ニ関シ書面ニ依リ回示アリ度旨申入ノ件

第一六六号

以書翰致啓上候陳者帝國政府ニ於テハ近ク在北滿洲駐屯帝國軍隊ノ撤退ヲ開始スヘキ計画ナル処最近東支鉄道沿線ニハ馬賊跳梁シ去ル八月十四日「ボクラニ―チナヤ」附近並同月二十日横道河子附近ニ於テ馬賊団ハ列車ヲ襲撃シ損害ヲ与ヘタル事件アリ同鉄道沿線各所居住ノ本邦人ハ頗ル不安ヲ感シ居レル現状ニアリ為ニ内外人ヨリ撤兵延期ヲ請願シ来レル者アリ事態如此ナルニ於テハ自然帝國政府予定ノ計

画ニ影響ヲ来スコトナキヲ虞ルル旨客月三十日本使親シク貴総長ニ申述ヘタル処貴総長ハ本使ニ対シ右日本軍隊ノ撤退ハ中国政府ニ於テモ歡迎スル所ナリ而シテ当該外国人ノ生命財産ノ保護ニ関シテハ中国政府ニ於テモ十分考慮シ居レル次第ニシテ既ニ当該軍憲ヲシテ切実ナル弁法ヲ講セシメツアリト声明セラレタルヲ以テ本使ハ然ラハ右撤兵後貴國政府ニ於テハ当該方面ノ治安ヲ維持シ外人ノ生命財産ヲ十分ニ保護スルノ責任ヲ執ラルル義ト了解シ此ノ旨本使ヨリ帝國政府ニ轉達シ差支ナキヤト問ヒタルニ貴総長ハ右様取計ハレ差支ナシト答ヘラレ候就テハ本使ヨリ右帝國政府ニ轉達致シ撤兵ノ遂行ニ資シ度候間前記ノ通貴総長声明ノ次第貴翰ヲ以テ御回示相成度此段照会得貴意候 敬具

大正十一年九月六日

(附屬書二)

(別紙)

九月十五日附小幡公使ヨリ顧外交総長宛公文第一七三号

右ニ関シ至急照覆アリ度旨督促ノ件

第一七三号

以書翰致啓上候陳者北滿洲駐屯帝國軍隊撤退方ニ関シテハ去ル七月十二日附中字第一六一号貴翰末段ニ「所有現駐中

東路之軍訂於何時撤退希先期詳示」ト有之右ニ關聯シ本使

ヨリ七月十五日附第一二〇号照会ニ対シ八月二日附中字第一八一号貴翰御照覆接到更ニ九月六日附第一六六号拙翰ヲ以テ右帝國軍隊撤退後該地方ノ治安維持並帝國臣民生命財産ノ保護ニ関シ貴総長ノ注意ヲ邀ヘ併テ貴答ヲ求メ置候次第ニ有之候処本件撤兵ハ愈九月十日前後ヨリ開始シ同月中旬(長春迄引揚ノ期日)ニ至リ全部終了ノ予定ナル趣ヲ以テ貴國政府ニ通知方今般帝國政府ヨリ訓令有之候ニ付右玆ニ及御通知候条右様御承知相成度尚ホ前記当該方面ノ治安維持並本邦人ノ生命財産ノ保護ニ関シテハ屢次貴総長ノ声明ノ次第モアリ前記第一六六号拙翰ニ対シテハ至急何分ノ義御照覆相煩度此段御通知旁重ネテ照会得貴意候 敬具

大正十一年九月十五日

日本帝國特命全權公使 小幡 酉吉

支那共和国外交総長 顧維鈞殿

五〇〇 九月十六日

在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛

日本軍撤退ニ関スル東省特別区警察管理処長
ノ訓示報告ノ件

一一 北滿守備隊撤退ニ関スル件 五〇〇

機密第一九五号

(九月二十一日接受)

大正十一年九月十六日

在哈爾賓

總領事 山内 四郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

支那警察管理処長訓示ノ件

東省特別区警察管理処長金榮桂ハ日本軍隊撤退ニ関シ本月十四日管内各警察署長及分署長ヲ召集シ左記ノ通り訓示ヲ為シタリ

記

一、大正七年秋以来露國過激派討伐ノ為西伯利亞及北滿地方ニ出兵セル日本軍ハ各国ノ問題トナリシモ過般日本政界ノ變動ト共ニ内閣更迭セシ結果各国ニ対シ撤兵ヲ声明シ愈撤兵スルコトナリタリ日本駐兵ニ関シ我カ中国民モ本年二回ニ亘リ外兵撤退ノ示威運動ヲ為シタルハ吾々等シク知ル処ナリ然ルニ露國赤軍及馬賊並ニ朝鮮獨立党ハ日本軍撤兵ヲ好機至レリト称シ枢要ノ市街地襲撃計画ヲ企テ横暴ヲ逞フセント欲スルニヨリ各官ハ細心ノ注意ヲ払ヒ各國人ノ生命財産ヲ保護シ決シテ問題ヲ惹起セサ

ル様留意スベシ

一、哈爾濱ハ商業地トシテ将来有望ナル場所ナルヲ以テ各
國人ハ野心ヲ有スルニヨリ此際哈市ハ勿論東支沿線ニ於
テ警戒不十分ノ為メ問題ヲ起セハ忽チ各国ハ東支鐵道ヲ
國際管理トナシ哈市ヲ共同租界トシテ開放セントシテ該
問題ノ起ルコトヲ窃ニ窺ヒ居ル状態ナレハ東三省ノ現在
状況ヲ諒知シ部下ニ訓示ヲナスヘシ

一、支那全国共外国人ト国交上ノ問題ヲ起スハ警察官即チ
巡警及兵士ナリ渠等ハ教育ヲ受ケ智識ヲ有スル者少ク主
トシテ労働者ヨリ採用セルニヨリ無分別ニシテ外人ヲ尊
重セス些細事ヨリ問題ヲ起スハ通例ナリ此際各官ハ自重
充分ナル訓練セラレンコトヲ希望ス

一、其他常人ト外国人トノ喧嘩等ニ出張シ又ハ現場ニ於テ
認ムルトキハ細心ノ注意ヲ払ヒ双方共能ク原因ヲ正シ直
ニ巡官以上ノ者ニ通報セシメ処置ヲナスベシ

併シ外国人ヲ尊重シ、輕蔑セラルル事アリシ時ハ正式ノ
手續ヲ為サシムヘシ外国人ヨリ殴打スルカ如キ事アリシ
場合ハ適當ノ手段ニ出ツベシ殊ニ停車場ニ勤務スル警察
官吏ハ特ニ注意ヲ要ス

払ヒ決裁ス

二、電信關係

イ、東部及南部添架電信線ハ級四二、〇〇〇円（材料費
ノ半額）ニテ東支ヘ交付ス

ロ、長春、哈爾濱間十四番線ハ東支ヘ返還ノ上滿鉄ノ專
用ニ復セシメ且在哈爾濱我官憲ノ使用權ヲ保留ス

ハ、各地市内電話線ノ建設料ヲ支払ヒ電信電話料ヲ支払
ハス其ノ線路ハ東支ヘ無償交付ス

ニ、哈爾濱無線電信所ハ東支ヘ返還シ将来ノ使用權ヲ保
留ス

右ノ外長春、寬城子間添架線ハ關東通信局ヘ引継キ尚烏
蘇里方面ニ於ケル処理ニ関シテハ目下交渉中ナリ

五〇二 九月十九日 在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛

北滿派遣軍ノ撤退情況ニ付報告ノ件

附記一 北滿撤兵經過摘要及特務機關設置問題

二 北滿撤兵後ノ警備ニ関スル張作霖トノ協定案
ニ対スル外務省ノ意嚮

公第四七五号

（九月二十六日接受）

一一 北滿守備隊撤退ニ関スル件 五〇二

右御參考迄ニ及報告候 敬具

写送附先

北京公使、總督府、奉天、吉林、長春

五〇一 九月十七日 芝生陸軍少將ヨリ
兒島陸軍次官宛（電報）

撤兵後ノ鐵道及電信ノ処理ニ関スル東支鐵道
庁トノ協定内容報告ノ件

交參九五

（九月十八日陸軍省接受）

今次撤兵ニ伴フ北滿方面ニ於ケル鐵道及電信ニ関スル諸問
題ハ過般來交渉ヲ重ネシ処十二日東支鐵道庁ト左記要旨ノ
如ク協定シ処理終レリ

一、鐵道關係

(イ) 日本軍專用車ハ双方立会ノ上接受証ヲ以テ返還ス但東
支ノ車輛ニシテ烏鉄線上ニアルモノハ同線上ニ於テ東
支代表者ニ返還シ又東支線上ニアル烏鉄道ノモノハ日
本軍ヨリ東支ヘ交付シ東支ハ時機ヲ待チ所屬鐵道ヘ引
渡ス

(ロ) 日本軍專用車ノ損害賠償ハ之ヲ支払ハス

(ハ) 日本軍專用車備付品ノ破損紛失ニ対シ日貨三万円ヲ支

大正十一年九月十九日

在哈爾濱

總領事 山内 四郎（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

北滿駐屯軍隊撤去報告ノ件

北滿派遣東支鐵道沿線当管内各地ニ駐屯ノ帝國軍隊ハ九月
十日「ボクラニチナヤ」ヨリ海林ニ至ル間ヲ撤去シテ横道
河子ニ集結シ次テ横道河子以西東支東線各地ヲ撤去シテ哈
爾濱ニ集結シ越ヘテ十三、十四ノ兩日ニ亘リ哈爾濱駐屯ノ
主部隊ト共ニ当地発帰還ノ途ニ就キ斯クシテ全部撤去セリ
但シ当地特務機關ハ其儘存シ浜面中將以下六名ニテ平服ニ
テ執務シ居レリ当地支那軍憲ハ右直接諒解シ居レリ

右報告及申進候 敬具

写送付先 在支公使 奉天總領事

（附記一）

北滿撤兵經過摘要及北滿其他ニ於ケル特務機關設置問題

（十月三十日外務省亞細亞局調）

帝國政府ハ六月二十三日ノ閣議ニ於テ西比利亞撤兵ノ議ヲ
決シ直ニ之ヲ発表シタルカ（欧米局第一課關係）本件実行

ニ伴ヒ自然北滿洲派遣諸部隊ノ撤去ヲ行フコトナリ九月中旬ヲ以テ右諸部隊ノ全部引揚ヲ了シタリ（西比利亞撤兵ハ十月二十五日ヲ以テ終了セリ）予テ陸軍側ニ於テハ右北滿撤兵後モ同地方ニ於ケル特務機關ハ之ヲ存置シ度キ希望ナリシカ六月二十八日閣員樞密院ニ參集ノ際外務大臣ハ陸軍大臣ニ對シ駐在武官若クハ之ニ類似ノ者ノ支那派遣ハ帝國政府力支那並西比利亞ニ於テ撤兵ヲ實行シテ表明セントシツアル「リベラル」ノ態度ニ逆行スルモノナルヲ述ヘ陸軍大臣モ首肯シタル趣ナリ

越エテ七月二十八日陸軍省係官當省係官ヲ來訪シテ北滿各地ニ特務機關ヲ存置スルニ對スル當省ノ意嚮承知シ度キ旨申出テタルヲ以テ詮議ノ結果九月十三日附外務大臣ヨリ陸軍大臣宛公信ニテ近時世界ノ輿論カ外國ニ對スル軍事的施設ニ関シ頗ル敏感トナリ殊ニ華府會議以來列國ノ視線益々支那ニ集注セラルルニ至レル今日特務機關ノ如キ軍事機關ヲ我版圖外ノ地ニ設置セントスルカ如キハ支那及列國ノ猜疑ヲ招ク虞多ク独リ北滿撤兵ノ内外世論ニ及ス良好ナル効果ヲ減殺スルニ止ラス一般國際關係上我國ニ及ス不利益モ尠カラサルヘク又軍事情報蒐集ノ必要アル場合ハ公使館附

武官ニ出張ヲ命スルカ如キ適宜ノ方法可有之ニ依リ撤兵後ハ之等特務機關駐在武官又ハ之ニ類似ノ施設ハ北滿並ニ漢口地方其他共一律之ヲ行ハス以テ我方撤兵ヲシテ我國際的地位ヲ良好ナラシムル上一層ノ効果ヲ擧ケシムル方得策ナリト思考スル旨回答シタリ

更ニ本件ニ関シ九月二十三日畑軍務局長芳沢亞細亞局長ヲ來訪シ前記當方ノ公文ハ確ニ接到シタルモ陸軍トシテハ牒報事務ヲ廢スル能ハサルニヨリ單ニ牒報蒐集ノ為ニ特務機關ト稱スルモノニアラスシテ駐在武官ヲ配置シ度ク即チ職務ハ全然軍事牒報ニ限り從來ノ弊ヲ除クコトトシ派遣員モ少佐中佐ヲ頭トシテ規模モ縮少スルコトトシ度旨申出アリ芳沢局長ハ之ニ對シ右ハ要スルニ規模ヲ平面的ニ縮少シ又名称ヲ變更スルト云フニ止リ事實ハ其儘存在スル次第ニ付外務省トシテ同意シ得ルヤ問題ナルモ兎モ角モ誤解ナキ為メ書面ニテ申越アリ度旨ヲ答ヘタルカ其後陸軍側ヨリ何等照会ナシ

（附記二）

北滿撤兵後ノ警備ニ関スル張作霖トノ協定案ニ對スル外務省ノ意嚮（十一月二日亞細亞局調）

今日張作霖ト撤兵後ノ警備等ニ関シ特ニ覚書ヲ作成交換シ一ツノ協定ヲ取り結フコトハ却テ張ノ我ニ對スル武器供給等ノ要求ヲ誘發スルコトナリ他面列國ノ誤解ヲ受ケ所謂「日本軍閥」ノ北方援助攻撃ノ宣傳材料ニ利用セラレ結局支那ニ於ケル我立場ヲ困難ナラシムルノミナラス特ニ華府會議ノ際我一般外交上ノ不利不便ヲ蒙ルノ虞アリ陸軍中央部ノ意向ハ要スルニ撤兵後過激主義宣傳並不逞團ノ行動取締ヲ請求シ撤兵後始末ノ為必要ノ軍憲ニ對シ其安全ヲ保障シ旅行通信ノ便宜ヲ提供セシムルヲ主眼トスルモノナルニ依リ此目的ヲ達スル為撤兵決定ト同時ニ若クハ其前予メ赤塚總領事ニ大要左記ノ通りノ趣旨ヲ訓令シテ此目的ヲ達スル様取計ヒ度外務省ノ意向ナリ

左記

帝國ハ來ル月日ヨリ北滿派遣軍ヲ漸次撤兵スルコトニ決定セル処撤兵後ノ過激主義ノ宣傳並不逞團ノ行動ニ付テハ本件ニ関スル日支兩國共通ノ利害ニ鑑ミ張ニ於テモ一層注意ヲ払ヒ其取締ヲ嚴重ニセラレ度尚撤兵後始末ノ為必要ニ応シ一時北滿各要地ニ滞在スル我陸軍官憲ニ對シテハ其任務遂行ニ必要ナル身体安全ノ保障ヲ与ヘラレ且ツ旅行通

信ニ對シ十分ノ便宜ヲ供与セラレンコトヲ口頭ヲ以テ張ニ對シ懇談セラレタシ

五〇三

九月二十日

在ヘルピン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

海林公司工場ニ導入ノ中国兵問題ノ處理ノ為
同公司理事ヲ再度海林ニ派遣シタル件

第三二〇号

（九月二十一日接受）

往電第三〇六号ニ関シ

理事帰還ノ結果詳細復命ヲ得タルカ海林出先公司員ハ馬賊襲來ノ報ニ驚カサレ我軍撤退ト同日既ニ支那團長ニ依頼シ約五十名ヲ公司建物内ニ入ラシメタル由右ニ付御訓令ノ主旨ニ可成相適フ様何トカシテ團長及海林公司員間ニ於テ協定ヲ結バシメ道尹ヲシテ右ヲ承認セシムル様ノ手配ヲ為サントシ海林公司理事ヲシテ再ヒ右現地ニ趣カシメタリ
北京、奉天、吉林へ電報済

五〇四

九月二十五日

在浦潮堀政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

勞農露國ノ極東擾亂企圖ニ付デ、リ、ニユー
ス記者ノ談話報告ノ件

第一八四号

(九月二十六日接受)

当地「デイリー、ニュース」記者「ユウイング」ノ永井ニ語ル処ニ依レハ勞農露國ノ歐洲攪乱策ハ土耳其國民軍ヲ応援スルコトニ於テ近時殊ニ其ノ銳鋒ヲ現ハシ来リタルカ其ノ魔ノ手ハ驕テ極東ニ向テ伸ハサルヘク日本軍ノ引揚及聯合鐵道管理機關撤廢ノ後東支鐵道方面ニ於テ馬賊其ノ他不逞徒輩ノ交通侵害頻発シ而シテ支那軍隊ノ無力到底頼ムニ足ラサルコト明カトナラハ英米兩國ノ了解ノ下ニ先ツ齊多共和國ノ軍隊ヲ同鐵道沿線ニ配置シ同地帶ヲ根拠トシテ徐ロニ極東攪乱策ノ実行ニ取掛ルニ至ルコト必定ナリト述ヘ居タル趣ナリ

御参考迄

五〇五

十月二十一日 内田外務大臣ヨリ
在奉天赤塚總領事宛(電報)

白系露軍ノ滿洲進入ニ対シ日本ハ嚴正中立ノ

態度ヲ採ル旨訓令ノ件

第一七二号 至急

浦潮ニ於ケル白軍力敗戦ノ結果滿洲ニ遁入スル場合ニ於テ我官民共特ニ慎重ノ注意ヲ払ヒ嚴正中立ノ態度ヲ執ルコト

事項一二 中国内政關係雜件

五〇七

一月十六日 在広東藤田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

奉直ノ対立ニ乗ジ孫文ハ北伐断行ヲ意図スル

旨ノ新聞論調ト政客ノ談話報告ノ件

第七号

(一月十七日接受)

当地新聞ノ論調及孫文系人物ノ談話ヲ綜合スルニ梁士詒内閣ノ出現ニ対シ奉直兩派ノ暗闘益々險惡ニ趨リ民間反對ノ声亦高キニ乗ジ孫文ハ愈々近ク北伐実行ノ決心ヲ為シタルモノノ如ク目下汪精衛ヲシテ宣言布告文ヲ起草セシメ居レル趣ナリ軍資金不足ナルヲ以テ孫文ハ多額ノ不換紙幣ヲ印刷シ居レル形跡アリ唐紹儀陳炯明ハ元ヨリ北伐ニ反対ナルモ孫ノ決心動カスベカラザルモノアルヲ以テ之ヲ如何トモスル能ハザルモノノ如シ

在支公使上海漢口總領事ヘ電報セリ

五〇八

一月十七日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

奉直緊迫ノ将来ニ対スル陸宗輿ノ見解報告ノ

件

トシ支那側カ其中立義務ノ結果遁入軍武裝解除ヲ行フ場合ニ於テモ勿論我方ハ局外者トシテ関与セサルコトトシ我態度ニ付誤解ナカラシムル様御配慮アリタシ

右在滿各領事(分館ヲ含ム)ニ訓令トシテ且ツ在支公使並在浦潮總領事ニ参考トシテ転電アリタシ

五〇六

十一月九日 在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

北滿撤兵後軍使用ノ建物ノ管理費ニ付關東軍

ヨリノ申越書送付ノ件

第四〇二号

(十一月十日接受)

貴電第一八六号ニ関シ

問題ノ建物ハ非常ニ多額ナル經費ヲ支出スル余地アラバ兎モ角差当リ何等途ナシ又右管理引受方協定ニ関シ關東軍經理部長ヨリ本官迄申越シタル条件簡条書アリ全文郵送スヘキニ付御査閱ノ上何分ノ御指図ヲ請フ

第三二号

(一月十八日接受)

一月十六日陸宗輿ノ豊田ヘノ談話左ノ通

梁内閣組織ニ関シテハ曹錕ハ了解シ居ルモ梁ヨリ吳佩孚ヘノ話合徹底シ居ラサリシ点アリ吳ハ(一)段祺瑞一派ヲ掃蕩シ(二)奉天系ヲ討伐シ(三)英國ニ依リテ日本ニ当ル目的ヲ以テ近ク事ヲ起スラシク依テ張作霖ハ楊宇霆及町野ヲ北京ニ遣ハシ日本ノ援助ヲ得ン為運動シタリ楊ハ現ニ陸ニ対シ段カ先年北京ヲ守リテ敗レタルニ顧ミ吳ニシテ北進セハ張作霖ハ北京ヲ空シクシテ奉天軍ヲ関外ニ引揚ケ滿ヲ持シ一二ヶ月吳ヲシテ政治ヲ執ラシメタル後逆襲スル方針ナレハ緊急ノ場合曹汝霖及陸等天津ニ亡命セス奉天ニ来レト勧誘セリ云

右ハ勿論希望想像多キモ一時局觀トシテ注意スルノ価値アルヘシ

奉天ヘ転電セリ

(奉天中継一月十七日後一〇、三〇)